

令和4年度
第1回 社会教育委員会 議

日 時 令和4年8月23日(火)
午後1時30分～
会 場 戸田市役所5階大会議室C

次 第

- 1 開 会
- 2 委嘱状の交付
- 3 自己紹介
- 4 委員長あいさつ
- 5 議 事
 - (1) 令和3年度市民大学講座の報告について
 - (2) 第5次戸田市生涯学習推進計画進捗状況について
 - (3) 戸田市版生涯学習記録ツール(案)について
- 6 閉 会

議題 1 令和 3 年度市民大学講座の報告について

令和 3 年度市民大学講座（生涯学習担当実施分）は、以下の表のとおり実施した。

一部の講座でオンライン・オンデマンド（YouTube による動画の期間限定公開）による開催方法を導入し、受講の選択肢を拡大した。

〈成果〉

①学習機会の保証 →感染症の拡大状況にとらわれず事業が実施可能になり、学びの機会や成果の発表の場を提供することができた。

②受講者の年齢層の多様化 →20 代・30 代の受講者が増加し、受講者の年齢層が広がった。（従来の会場受講者の多くが 60 歳代以上）

〈令和 4 年度の主な取組〉

●講座の対面開催にとどまらず、オンライン・オンデマンド開催を継続し、受講方法の選択肢を広げ、更なる学習機会の拡大に努める。

●SNS の活用、メールマガジン等講座情報の周知の方法を広げる。

《令和 3 年度市民大学講座実績》

No	講座名	開催日	開催回数	場所	対面	オンライン	オンデマンド	
					参加者数	参加者数	申込者数	視聴回数
1	青山学院大学・戸田市連携講座	5/15（土） ～6/5（土）	4	大会議室 教育委員室	/	105	53	337
2	現代課題講座 1	7/10（土）	1	大会議室	24	9	24	54
3	公開講座	9/12（日）	1	大会議室	36	19	/	/
4	埼玉大学・戸田市連携講座	9/25（土） ～10/16（土）	4	大会議室 教育センター	66	27	26	114
5	子育て講演会	10/13（水）	1	大会議室	40	19	117	217
6	岐阜女子大学・戸田市連携講座	11/13（土） 12/4（土）	2	教育センター	23	10	/	/
7	人権教育指導者研修会	11/8（月） 11/12（金）	2	文化会館	38	/	/	/
8	市民企画講座 1	12/11（土） 12/18（土）	2	教育センター	21	19	/	/
9	人権講演会	1/21（金）	1	大会議室	/	12	45	86
10	とだ学	2/5（土）	1	彩湖自然学習センター	6	/	/	/
11	生涯学習サポーター養成講座	2/19（土）	1	メディアコーナー	/	17	/	/
12	現代課題講座 2	3/12（土）	1	文化会館	25	14	/	/

合計 参加者：対面 279 名、オンライン 251 名 オンデマンド視聴回数：808 件

※公民館、戸田市立図書館、戸田市立郷土博物館並びにその他公共施設（あいパル、笹目コミュニティセンター、さくらパル）の令和 3 年度事業実績は、別添参考資料のとおり。

議題 2 第 5 次戸田市生涯学習推進計画進捗状況について

令和 3 年度に施行した第 5 次戸田市生涯学習推進計画（令和 3 年度～令和 7 年度実施）の進捗状況を事業担当課で自己評価を実施した結果、次のとおりとなった。

（1）各基本方針に係る取組の達成状況

≪達成状況≫

※評価基準及び個別の取組概要は、【資料 1】から【資料 4】を参照

基本方針	事業数	目標達成 (A・B 評価)	目標未達成 (C・D 評価)	評価不可
基本方針 1	8	7	1	0
基本方針 2	121	97	12	12
基本方針 3	35	30	3	2

①基本方針 1（新たな自分に出会う ～学びのキッカケづくり～）

評価：ほぼ全ての取組を目標どおり・目標以上実施

- ・講座の会場開催にとどまらず、オンライン・オンデマンド開催の手法や資料の電子化、メルマガ配信による周知等、従来の取組に新たな手法を導入したことで、事業への参加者層の拡大につながった。

②基本方針 2（人生 100 年時代を豊かに生きる ～ライフステージや多様な市民ニーズに応じた学びの提供～）

評価：約 75%以上の取組を目標どおり・目標以上実施

- ・対面とオンラインのハイブリッド開催を取入れ、ほぼ目標どおり事業を実施したが、コロナの拡大により未実施・中止となった事業が散見された。
- ・スポーツイベント等体験系の事業は、事業の性質上、オンライン等での代替開催が難しい様子がみられるが、新たな事業の実施手法の検討・研究に努める。

③基本方針 3（まちを元気に ～学びの成果の活用と交流の仕組みづくり～）

評価：8割以上の取組を目標どおり・目標以上実施

- ・目標以上の参加者数の確保等、目標以上・目標どおりの取組を実施し、市民の交流の場を確保した。
- ・目標未達成の事業は、感染予防のため規模・対象・期間等を縮小したこと等が理由として挙げられる。

（2）今後の課題

令和 2 年度までは、新型コロナウイルスの拡大により、多くの事業が中止や縮小を余儀なくされたが、令和 3 年度はオンラインの活用など工夫を行い、目標どおり実施した事業数が増加した。感染症等社会情勢に左右されず、継続して市民へ学びの機会を提供できるよう、今後も工夫を重ねる。また、良い取組や実施手法等の情報提供・共有をしていく。

議題3 戸田市版生涯学習記録ツール（案）について

（1）学習記録ツール作成の背景と目的について 【資料5】2頁

背景：自身の必要な学びややりたい学びを自分で設計し、振り返ることを通じて自己学習力を高めることが重要となっている。

目的：・自身の学習過程や成果を記録・集積することで、学習履歴や到達度を振り返り、自身の生涯設計や学習計画、地域活動へ役立てる。
・更に、リカレント教育（学び直し）の推進や、受講した講座を次の学びへつなげるきっかけとする。

（2）他自治体の事例 【資料5】3～6頁

①京都市 「京まなびパスポート」

②春日部市 「はるがく帳」

（3）戸田市版学習記録ツール（案）

- 「自己分析シート」【資料6】 … 学びたいことの洗い出し、興味のあることへの気づきや発展につなげる
- 「学びの記録」【資料7】 … 学習履歴を可視化する

（4）戸田市版学習記録ツールの今後の予定

令和5年度の市民への配布に向けて、令和4年度中に作成する。

《今後の予定》

【令和4年度】

8月23日：第1回社会教育委員会議 戸田市版学習記録ツール（案）の提示

2月～3月：第2回社会教育委員会議 戸田市版学習記録ツールの確定・完成

【令和5年度】

- 4月～
- ・戸田市版学習記録ツールの運用開始
→市ホームページで公開、紙媒体の配布
 - ・学習歴を社会で生かす仕組みづくりの検討

※令和5年度は試行期間とし、市民大学受講者へモニタリングを実施する。

→使用感、使用前後の学びの振り返り手法や意欲の変化等を確認

⇒効果等を分析、必要に応じて改良する